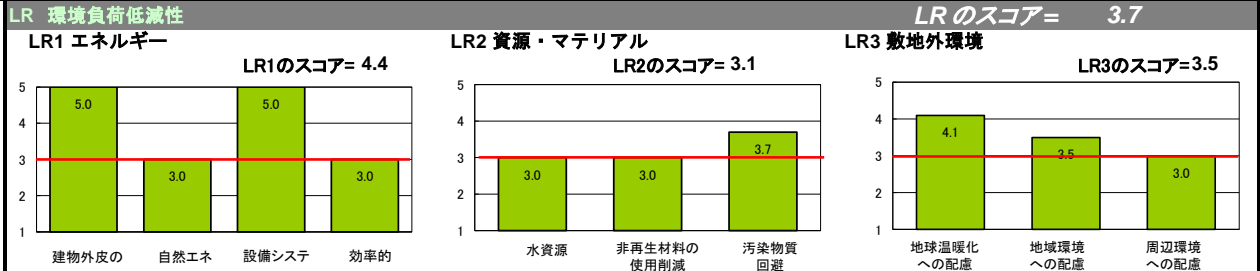
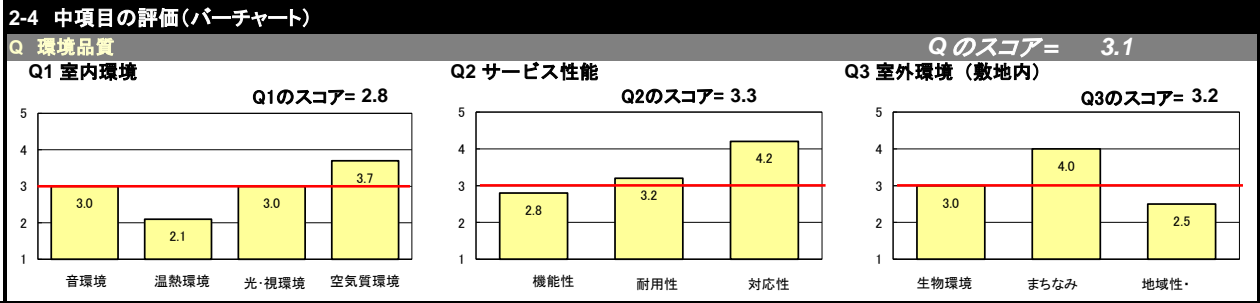
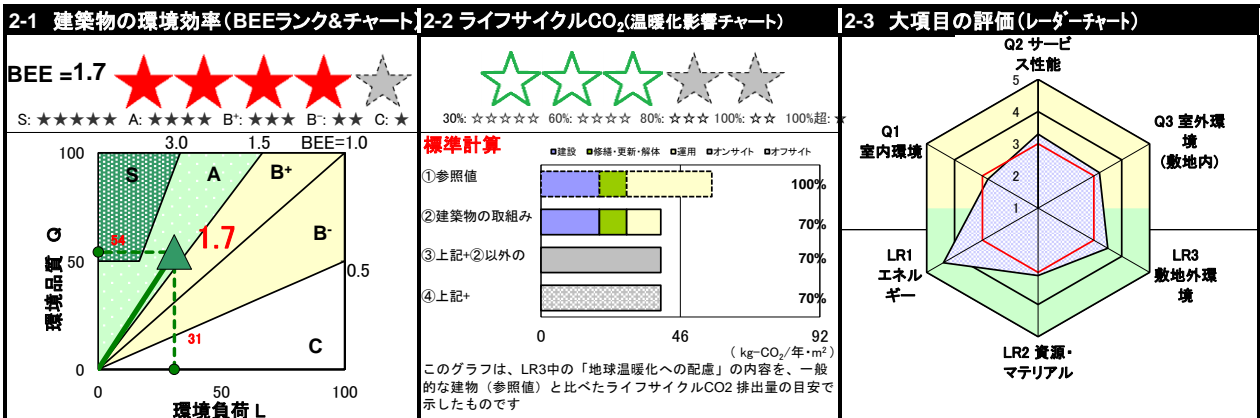


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	GLP平塚 I プロジェクト	階数	地上4F
建設地	神奈川県平塚市大神字下堰950の一部 外130筆(43街区1~221画地)	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	200人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年11月 予定	評価の実施日	2020年10月1日
敷地面積	19336.72 m ²	作成者	JFEビル株式会社 一級建築士事務所
建築面積	11572.48 m ²	確認日	2020年10月1日
延床面積	41382.81 m ²	確認者	JFEビル株式会社 一級建築士事務所

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



3 設計上の配慮事項

総合	その他	
平塚市内の準工業地帯において、周辺環境との調和および地球環境へ配慮した建築計画を行う。	0	
Q1 室内環境 換気量を確保することで良好な空気環境を保つ計画とする。	Q2 サービス性能 更新必要間隔の優れた外装材、内装材および配管材を使用し、建物の長寿命化を図る。 利用者を考慮した、ゆとりある広い空間設計とする。 建物用途の変更に対し自由度の高い設計とする。	Q3 室外環境(敷地内) 緑地化により、建物周辺の景観に配慮した設計とする。
LR1 エネルギー LED照明器具等の効率の優れた設備機器を導入し、省エネルギー化を図る。	LR2 資源・マテリアル 躯体から仕上げ材の分別を容易化し、解体時の資源再利用に配慮する。 発泡剤を用いた断熱材を使用していない。鉱物繊維系の断熱材でグラスウールおよびロックウール吹付を採用。	LR3 敷地外環境 燃焼機器を用いず、温暖化を抑制する。 自転車置場(バイク置場含む)、駐車場及び荷捌き用車両の駐車施設を確保し、大型車の待機場を設けることで周辺道路の渋滞緩和対策としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される